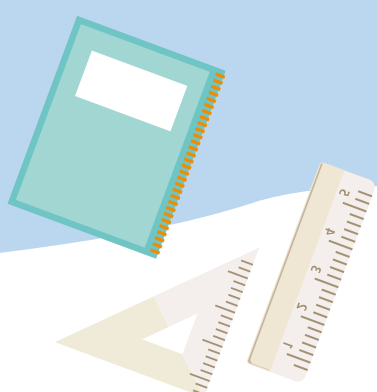




質問箱 Q & A



標本調査の指導について

3年生



uestion

標本調査は、3年の最終章であり、どうしてもかけ足になってしまいます。どのような指導を心がければよいのでしょうか。



answer

現代の情報化社会においては、確定的な答えを導くことが困難な事柄についても、目的に応じてデータを収集して処理し、その傾向を読み取って判断することが求められます。「データの活用」の領域では、基本的なデータの整理や活用の方法を理解し、これを用いて傾向をとらえ説明することを通して、統計的・確率的な見方や考え方を培うことを主なねらいとしています。

確かに標本調査は3年の最終章であるため、様々な学校事情により十分な指導時間がとれない場合もあるかもしれません。だからといって、標本調査の方法のみを知識として与えるのでは、この領域のねらいを十分に達成したとはいえないでしょう。

標本調査の指導にあたっては、標本の抽出方法、推測のしかたについての知識を獲得した上で、実験や調査等の活動を通して実際に標本調査を体験し、実感を伴ってその意味や必要性などを理解させることが大切です。その際、日常生活や社会においては、様々な理由から収集できるデータが全体の一部分に過ぎない場合が少なくないことを理解させ、全数調査と比較するなどして、標本調査の必要性和意味の理解を深めることが必要です。

また、従前の中学校数学科における確率や統計の内容の指導が、データの「整理」に重きをおく傾向があったことを見直し、整理した結果を用いて考えたり判断したりすることの指導をますます重視しなければなりません。したがって、標本調査を通して母集団の傾向を把握し説明した資料の内容について話し合ったり、その確かさについて議論したりする活動を充実させることも大切です。

限られた時間の中でも、日常生活や社会における事象に関する問題解決を重視し、数学的活動を充実させ、生徒の活動を中心に展開される指導を心がけることが大切です。

＼ 学びがいっぱい！ ／

情報配信サービス

中学校

エデュフル